

2017 年度コラボミュージアム作品づくりコンテスト

小学校・中学校部門 アピールシート

平成30年 1月 16日

所属名：	静岡市立美和小学校
実践学年組：	5年 1組
氏名：	望月 貴子

教科	国 語
実践期間	平成 29 年 10 月 20 日 ～平成 29 年 11 月 2 日
実践タイトル (35 文字以内) 「季節の雰囲気を感じる俳句を作ろう」 ～9人の5年生の思いに小中一貫教育グループ校が応えます～	
実践の目的 小学校5年生9名が国語の授業で「季節の雰囲気が伝わる俳句」を作成し、多くの人たち(他小学校40名・中学校26名 計66名)からアドバイスや感想を受け、それをもとに作品を推敲し、より季節の雰囲気が伝わる作品に仕上げる。	
実践のポイント・工夫 ・普段はクラスの友だち8名からの感想やアドバイスしか受けることができない子どもたちが、多くの人たちと交流することができ、協力してくれた人へ向けて作り上げた作品を発信するという相手意識・目的意識を持って活動することができました。 ・平成34年度より全面実施となる静岡型小中一貫教育におけるICT活用を推進する実践となります。	
実践内容(簡単に) 「もっと多くの人にアドバイスや感想が聞けたら子どもたちの取り組み方も変わるのでは・・・」という思いからスタートしました。その気持ちは子どもたち自身も持っていたようです。 美和小の5年生は9人と人数が少ないため、授業内で自分が作った作品に対して感想やアドバイスをもらいたくても限りがあります。そんな思いに応えるため小中一貫教育グループ校の安倍口小の5年生40人がICTを使って協力することになりました。それだけでなく、美和中の3年生26人も協力してくれることになり、合計66人の児童・生徒が9人の作った俳句の作品にアドバイスを贈るという学習になりました。推敲した俳句は時間のある時にみていただけるように、コラボノートにアップし、どこをどんな風に推敲したか、コメントも書きました。 この授業の中で、俳句についての学習はもちろん、インターネットを使って交流(アドバイス)する時には、相手の気持ちを考えてやりとりすることが大切であることや、学校を越えて様々な人とつながることの良さも学ぶことができました。	

(コラボノート)を使用してよかった点を教えてください。

- ・小中一貫教育グループ校間で交流活動を進めていく上で、リアルタイムでも、時間を合わせなくても交流を行うことができるため、無理なく実施することができました。
- ・子ども自身に「対面しない相手を意識した発信」を意識させながら活動することで、実践的な情報モラル教育も合わせて行うことができました。

実践記録の概要（単元略案）

※コラボノートを活用した場面だけではなく、全体の学習の流れとコラボノートをどの場面でどのように活用したか記載してください。

全4時間 言葉をよりすぐって俳句を作ろう「日常を17音で」

時数	学習活動	先生の指導・支援 および評価	コラボノートの活用
1	1.学習の見通しを持つ。 P101の三つの俳句を読み、一番気に入った俳句を決めて、その理由を発表しあう。	俳句に関心を持って読んだり、感想を話したりしている。	なし
2	2.日常生活の中で気づいたことや驚いたことを思い出し、短い文章で書き留め、俳句を作る材料を集める。	俳句に関心を持って、自分で作るうとしている。	なし
3	3.材料として集めた短い文章や季語を組み合わせて、俳句を作る。 4.コラボノートで交流ページを作り、俳句をアップする。 (交流先の学校が見て、アドバイスを書き込む。)	・言葉の選び方や順序について、確かめたり、工夫したりしている。 ・語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持ちながら俳句を作っている。	作成した俳句を交流校へ見てもらえるように、コラボノートにアップし、アドバイスしてもらえよう欄も作成した。
4	5.交流先の学校から書き込まれたアドバイスを見て、自分の俳句を推敲し、清書する。 6.出来上がった俳句を再度コラボノートの交流ページにアップし、工夫した部分をコメント入力する。	・交流校からのアドバイスを基にして、よりよい俳句になるよう言葉の選び方や順序について工夫をしている。 ・自分でよりよい俳句になるように作るうとしている。	・書き込んでもらったアドバイスを読んだ。 ・最終的に出来た俳句を工夫した点のコメントを入れて、アップした。